



# 日本道経会

12 No. 289  
月号

## 本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数 / 互敬塾塾生  
733社 / 507名

(令和5年12月1日現在)

## 巻頭言

## 日本道経会理事を拝命して

(一社) 日本道経会 理事  
大木産業株式会社

取締役会長 大木 悅子



昨年、日本道経会理事を拝命しました大木です。モラロジーの教えに、両親がご縁を頂いたのが、私が小学校高学年の頃でした。それから早50年以上の年月が過ぎ、今思うことは、もし、ご縁を頂かなかつたら、今の自分はなかったということです。

人生も最晩年にに向かい一つある今、自分の人生を振り返り、先人の教えを書籍などで読み返すとき、「人生には必ず困難な時期があり、それをどう受け取るかで人生の方向が変わってくる。」とあります。

自分のつたない人生の中でもそれなりに困難な時期がありその問題に向き合う、と覚悟を決めた時、道は開けたように思

います。そして覚悟を決めた時、モラロジーの教えが軸になっていたように思います。自分の損得ではなく、誰かの損得を軸に考える。神様は必ず、見ていて下さる。そんなことを思います。今のは幸せな人が多いから、あまり人生に対して真剣に考えることが少ないと感じます。

オギヤーと生まれ、人生のある時期に幸せと困難を経験し、困難を乗り越え穏やかな人生の終盤を迎える、誰かの役に立ちたいと思う。今、私も誰かのお役に立ちたいと思うこの頃です。

こうして、両親が繋いでくれたこのモラロジーのご縁を大切にしながら少しでも、誰かのお役にたつ人生の時間を過ごしたいと思っています。

ありがとうございました。

## ◎ 東京支部 10月経済講演会



令和5年10月19日(木)17時より麗澤大学新宿キャンパスにおいて、東京支部10月経済講演会を参加者27名のもと開催いたしました。講師には、日本道経会会員企業、福留ハム株式会社代表取締役会長の中島修治氏をお迎えし、講師自らの執筆本より「私の人生観——吾れ唯足るを知る——道経一体の師を求めて」と題して、ご講演いただきました。

今講演は、中島講師が大学生時代に熱い想いを懸けた文

学と命を削った壮絶な経営体験を元に、道経一体の師として、廣池博士をはじめ、稻盛和夫氏、松下幸之助氏、伊那食品工業の塚越寛氏、その他、名経営者、学者、そしてお釈迦様、ご尊父様から学ばれた人生観を語っていただきました。

各師の道経一体の思想や経営のお話を頂くにはあまりにも時間が短く、濃いお話ではありましたが、講演資料に加え、講師の執筆本と経営理念手帳を参加者全員に配布頂いたことで、より理解を深められる機会となりました。

また、経営の神様と言われた松下幸之助氏が廣池博士の影響を受けたお話や、稻盛和夫氏主催の盛和塾での中島講師と稻盛氏とのエピソードなど、中島講師ならではの興味深いお話を頂き、あらためて道経一体思想が経営の定石であると感じました。

講演終了後も、会員企業のお店で懇親会を行いましたが、講師への質疑応答が止まる事のない、学びの深いひと時を過ごすことができました。

東京支部幹事 鈴木 芳文

## ◎ 東海3支部（愛知・三重・岐阜）合同研修旅行



令和5年10月6日(金)～7日(土)で東海三支部合同の研修旅行を開催致しました。今年度は、3年振りの開催でしたが、三重支部の伊勢国際観光バスの中西専務さんのご協力で17名参加していただきました。場所は京都府綾部市にありますグンゼ博物苑・記念館・天橋立方面・舞鶴の海軍記念館・引揚げ記念館を訪問いたしました。

初日は、京都府綾部市にあります、京都支部会員「有限会社ふしみや」さんの、由良川のほとりにある風光明媚なところ「ゆらり由良川」店で、昼食をいただきました。

その後、グンゼ博物苑に移動をして、特産物館長さんの荒木様、株式会社大平電機の藤田社長様にお出迎えいただき、グン

ゼ様のスタッフの方と一緒に繭蔵を改造した創業蔵、現代蔵、未来蔵、グンゼ記念館を案内していただきました。

明治29年の創業、蚕糸業と地域の振興に生涯をささげた郡是製糸の歴史と歩み、自ら律して努力を惜しまず「至誠」を貫き通した「波多野鶴吉」の創業の精神を学ぶことができました。

『道徳科学の論文』7冊目追加文(35)に波多野鶴吉社長は、最高道徳ではないが、道徳教育に尽力され、その教育が功を奏して、日本有数の大工場にまで発展したと書かれています。現地を訪問させていただき、実感させていただきました。郡是のひとつづくりの例、「善い人が良い糸をつくり、信用される人が信用される糸をつくる」として、従業員教育、に力を注がれたことが、よくわかりました。

2日目は舞鶴方面に向かい、「海軍記念館」と「舞鶴引揚げ記念館」を見学させていただきました。「舞鶴引揚げ記念館」では、当日10月7日は引揚げ記念日になっていてイベントが開催されていました。シベリアでの獄留生活の様子、大変な思いで日本に引き揚げてこられた様子「岸壁の母」で有名な、待てども、待てども息子が帰ってこない切ない思い、胸が熱く感じられました。

2日間でしたけれど、皆さんのご協力のおかげで、無事に研修旅行を終えることができて、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

岐阜支部 事務局長 浅野 龍介



## 千葉支部 交流委員会セミナー

事業名:日本道経会千葉支部 交流委員会セミナー(互敬塾  
交流事業)

日時:令和5年10月7日(土) 参加者:36名

柏の野馬土手ヨコで開催された第2回千葉支部、交流委員会セミナーでは2人の講師より非常に印象的なお話を多く伺う事ができました。

「親子団欒～学びと交流～」と題された本セミナー、第2回となる今回のテーマは「ファミリービジネスと事業承継」でした。

第1講では公益財団法人モラロジー道徳教育財団理事で企業センター長の永治達彦講師にご登壇頂きました。

永治講師によると、日本においては企業全体のうち実に99.5%がファミリービジネスであり、海外のファミリービジネス研究に関する報告でも日本企業が取り上げられるなど非常に重要な意味を持っている。ファミリービジネスにおいて最も重要な事は円滑な事業承継である。「道徳を実践する人はあれど、道徳は実践をする家庭は少ない」という言葉にもある様に、後継者に対しては教育や理念の継承が重要であるとのことであった。

第2講では浄土宗光琳寺第30世住職の井上広法講師にご登壇頂きました。

井上講師は不安を抱える現代において、お寺がWEB上で相談の窓口となるkotonohaや、お寺が開設したシェアオフィス「aret」等様々なチャレンジをされています。人間の幸福感を決める要因は3つで、その中で40%は本人の心掛けによるものであ

り、そのため行動は同じでも考え方でも物の見方は変わる。これを仏教では正見という。

多くの言語において考える事と感謝には繋がりがあり、think →thank、denken →danken、思→恩になる等、文字の成り立ちも非常に近い。現代人は立ち止まって考える事が苦手であるが、ひとつひとつの成り立ちを考える事で感謝が生まれるのだという事を、コンビニのおにぎりを例に挙げてご講話頂きました。

二人の講師のお話を伺い、企業としても個人としても感謝や道徳がより良い生き方への道なのだと感じました。感謝とは自分ひとりでは決してできない行いであり、自分と他者、あるいは社会と繋がるための方法なのだと今回のセミナーを経て再認識する事ができました。

千葉互敬塾 (株)宮口石材商店 宮口 真太郎



## 大阪支部 講演例会

令和5年11月13日(月)18時よりホテル阪神大阪にて大阪支部11月例会を開催いたしました。

当日の参加者は34名でした。

互敬塾塾長でもあります株式会社原田フーズ代表取締役原田晋一氏をお迎えし、「働く喜びを感じられる会社づくり」をテーマにご講演いただきました。

永続経営において最も大切ともいえる「事業継承」は、誰もが抱える課題で“これが正解!”という明確な答えなどなく、自力でクリアしなければなりません。ケースバイケースの課題だからこそ、そのヒントにでもなればと、三代目の葛藤から会長・社長関係に至るまで赤裸々に語っていただきました。なかなかの内容に、三代目という同じような立場の私自身も、シンクロする部分が多くあり、どこか親近感が湧きに湧いた次第です。現在は、次のバトンを渡す準備といいますか、イメージしながら「道経一体思想」を四代目候補と共に学び、100年企業を目指される強い意志を感じました。

また、NPOとの協働が、今までとはガラッと環境を変えなければならない大きな転機を迎えることになり、タイミングも良かったのか、ニートの社会復帰という天命に従いて人事を尽くされました。合理化・効率化を図るのはもちろんですが、一方で「働くとは?」という根本的な問題提起と真摯に向き合う機会に恵まれたとのこ

と。それによって「働き方改革」にも寄与したことや映像を交えて実践している事例をご説明いただきました。まさに「人づくり経営」をわかりやすく学ぶことができたと思います。

懇親会は、講師もご参加いただき、日本道経会メンバーと互敬塾メンバーも久しぶりの交流ができたのではと嬉しく思います。講師への質問も多く飛び交い、和やかな空気で進行できました。ただ、人間関係を悪くするのは情報不足が大きく占めると思いますので、互敬塾は親会へ活動報告をしっかり行い、情報はもっと共有しなければと反省とともに強く感じました…。

大阪・兵庫互敬塾 支部長 岩橋 栄太郎



## ◎ 長崎支部 講演会

「『見えぬところまで思いを馳せる』のが二人の共通点です。」大村移動例会は、11月16日(木)にパークベルズさくらホテルにて講談師・神田京子氏による講話「童謡詩人・金子みすゞと実業家・渋沢栄一の共通点を紐解く」でした。

赤穂浪士の討ち入りのような正義に結束する話は、這い上がる高度成長時代には良きストレス発散でした。しかしこれからは現実と折り合いをつけていく優しい内容ではないかと考え、郷土山口の詩人を題材に作った金子みすゞ伝は見事文化芸術祭優秀賞に輝きます。

明治36年仙崎に生まれた金子みすゞは、幼少の頃から見る村の風景、鯨業で失われる命に対する罪の意識と、3歳で父を亡くし、4歳で弟が養子に出された寂しさを詩にぶつけます。弟への恋愛感情を経て、番頭と結婚し子に恵まれ、商売を守る道を受け入れ、人生明るい方へと優しさも綴ります。しかし不治の病に襲われて我が子を案じながら、26歳で自死を選びます。「みんなちがってみんないい」、はそんなみすゞの渾身の想いでした。

神田氏の語る渋沢栄一はバランスの人です。常に周囲を傷つけてないか心遣います。

「年寄りがびっくりするようなことをやりなさい。必ず問題が起

きるから、修正をしながらやりなさい。」「勉強して、商売をするには、必ず正しい目的と道徳的な考えが伴わなければいけません。」力強く経営を説く渋沢は、明治44年第一等瑞宝章に叙せられますが、その華やかな栄誉の陰で、自分が押し進めた事業の煙で愛松が枯れたことに心を痛め、枯松を祀る石碑を建てています。神田氏の臨場感あふれる話芸で、渋沢翁の道徳と経済のバランス感覚が生き生きと伝わります。

最後は実行委員長として奔走した古川芳和氏の挨拶で、道経一体の勉強をもとに、心づかいの道徳、人づくりの経営実践を行う日本道経会への参加を呼びかけて締め括されました。

広報委員長 原 拓也



## ◎ モラロジー道徳教育財団 中国ブロック 経営者クラブ懇談会

2023年11月14日(火)に経営者クラブ懇談会が開催されました。

～テーマ「経営者の使命」～

社長が会社を決める。社長の写し鏡が経営と結果である。

組織は社長の器の現れ、社長の器以上にはならない。社長の器を超えると傾く事となる。

社長の器とは、お茶碗、大もあるも小もある。器を大きくすること、徳を積む積善・積徳の道。品性を上げる徳を上げる。運が来る、運を作る、運をつかむ。

お椀を大きくすると 天から降る運・チャンスが入ってくる。徳を高く積むと風に運ばれて、運・チャンスがやってくる。いずれもそれを掴むことが出来る。でも小さい人は 低い人は運が降ったことも 吹いたことも 分からない。

徳一杯の人生。

日本道経会 島根支部 代表幹事

松江経済同友会 会長

株式会社さんびる 代表取締役 田中 正彦



本会報のバックナンバーはホームページをご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：日本道経会

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134  
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局だより

本年も大変お世話になりました。  
ありがとうございました。

令和6年も本部事務局一同少しでも会員様のお役に立てるよう努力させていただきます。会員様各社の益々のご発展をお祈りしております。

本部事務局